

学校目標・経営方針	生徒の夢の実現と地域産業を支えるものづくり人材の育成
-----------	----------------------------

山梨県立韮崎工業高等学校長 高野 修

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、総合的な人間力を高める
	2 基礎学力の定着を図り、生徒の進路実現及び夢の実現に努める
	3 生徒会活動・部活動を通して豊かな人間性と逞しい身体を育む
	4 高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストを育成する

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			
本年度の重点目標			年度末評価(3月1日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	基本的な生活習慣を確立し総合的な人間力を高める指導の充実	①教職員の情報の共有化に努め、遅刻を繰り返す生徒の原因究明を行い、継続的な指導に努める。	各月ごとの数的推移
		②バイク・自転車安全運転教育・点検の充実と自転車の交通ルール、マナー違反の改善に努める。	実施結果の検証
		③7S活動の徹底、通学路のゴミ拾い、環境標語コンテスト等を実施し、環境美化意識及び愛校精神の涵養に努める。	アンケート及び実施結果の検証
2	基礎学力定着のための指導と個々の生徒の進路実現及び夢の実現にむけた指導	①わかる授業実現と評価方法の見直しを図りながら、生徒の学習意欲の向上に努める。	授業アンケートと授業観察
		②基礎学力が不十分な生徒への補充的な課外学習等に努める。	基礎力テストの結果の検証
		③自己実現にむけて各種進路行事・活動に積極的に取り組ませるとともにコミュニケーション能力の育成を図る。	アンケート及び進路実績の検証
3	生徒会活動・部活動の活性化と活動を通して豊かな人間性と逞しい身体を育成	①生徒会活動を通しての自主自律の精神と道徳性の向上に努める。	アンケート及び活動実績の検証
		②指導内容の工夫や生徒による主体的な活動を推進し、部活動の活性化を図る。	アンケート及び活動実績の検証
		③地域に開かれた学園祭の企画と立案や広報活動に努め、積極的な取り組みを図る。	実施後アンケート結果
4	高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストの育成	①企業実習や企業見学への事前指導を強化し、効果的なインターンシップの実施に努める。	実施後アンケート結果
		②進路実現・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。	取得実績の検証
		③産業技術短期大学校等の外部機関と連携し、国家技能検定などの高度資格に挑戦させ合格者の増加を図る。	取得実績の検証
5			

学校関係者評価	
実施日(平成30年2月16日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様々な活躍や実績が、生徒の自信と帰属意識につながり、問題行動が減少していると思う。しかし、これだけの成果を継続して行うには、先生方の手厚い指導など、大変御苦労が添ってこそだと思います。 地域としては、用水路に蓋をして通学路の安全確保を図った。通学路は、道幅が狭く、なおかつ曲がっている箇所があるので交通指導を徹底し事故防止に努めてもらいたい。 学校評価が上がることで、良き人材も多く集まると思う。充実した環境の中で生徒個々の人間性、技術力のアップを目指して社会へ送り出していきたい。 生徒は、良く挨拶してくれる。校歌も大きな声で歌えるように指導をお願いします。
3	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の取組については、学ぶ心の育成、学ぶことの大切さ、チャレンジして自己肯定感を高めていくことの重要性を生徒に伝え、学習習慣が身につくよう取り組むことが大切である。 わかる授業の実現と生徒の学習意欲の向上に学校全体として取り組んでいきたい。 人間としての在り方や生き方に関しては、勉強することが自分を守る大切な手段となる。劣化しないように生徒は、常にスキルアップ(技能・技術の向上)を目指してほしい。 学校評価を見ると約88%の生徒が韮崎工業の教育活動に満足している。この結果は、先生方と生徒の信頼関係が充実しているものと推察できる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等に生徒が意欲を持ち、前向きに取り組んでいることが、結果として表れているとともに、学校のイメージアップに結びついている。さらなる活躍を期待したい。 ボランティア活動を通じて、心こもった技術者の育成を目指していることが伝わる。このような活動は、今後も推進すべきである。 部活動や各種大会において、優勝するなどよく頑張っている。 学園祭において、工業高校らしい催しを見学することで、改めて貴校の教育活動のすばらしさを感じる。
4	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ、ボランティア活動等の取組により、社会と密接に結びついている。まさに「社会に開かれた教育課程」の実施であり、高く評価する。今後も上手いように企業、地域と連携協力しながら推進してください。貴校は、地域として大切な学校である。 技術者の育成という面では、よく資格を取得していると思う。また、競技会、コンテスト等において生徒が習得した技能を発揮できる場があることは良いことである。社会に出たときは、資格が有利に働く。今後も継続した指導をお願いします。 3年間のキャリア教育を通じて、進路意識・目的意識を早い時期から持たせる取組が、卒業時のキャリアアップにつながっていると思う。また、就職内定率100%というすばらしい結果につながっている。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

様式2 (様式2 平成29年度改善計画 学校用)

平成29年度版 改善計画

学校名: 山梨県立韮崎工業高等学校

No	項目	現状と課題	H30年度に目指すべき状態	①H29年度に実施する内容 ②H30年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	(現状) 職員会議等の会議資料は事前に配付し、提案は要点のみ説明するなど効率的に進行するように努めている。 (課題) 時間短縮のため、内容を精選したり、根回しが必要である。	会議を精選(20%削減)し、会議時間の短縮(1時間以内)を図るための根回しの徹底。	①事前打ち合わせの励行に努める。 ①会議資料の事前配付にて一読する時間を確保する。 ①参集時間の厳守と終了時刻の設定をする。 ②会議(委員会)の精選を検討する。 ②会議・研修会の目的や内容の見直しを行い、効率よく効果的に実施するための方策を検討し、実施回数や時間の削減を図る。	A
2	学校行事の負担軽減	(現状) 行事が多く、授業に影響してくることがある。 (課題) どのように行事を精選していくか。	教育目標に沿った内容から行事に優先順位を付け、単年度ごとに見直しが行える体制づくり。	①企画・運営マニュアル等を整備・改善し、次年度の業務量の軽減を目指す。 ②行事の目的や教育的効果を再検討し、廃止、縮減等による精選や実施方法の工夫に取り組む。	B
3	校内組織の見直し	(現状) 分掌の細分化は仕方ないが、仕事が多岐化している上、仕事量に格差がある。 (課題) 分掌が多く、複数の分掌に所属している。	全教員が、同等の仕事量を行える体制作り。一人1分掌の校内体制づくり。	①一人ひとりに責任を持たせるように公務を割り振る。 ②分掌内だけでなく包括的に業務が特定の教員に過剰負担にならないよう、業務の平準化を図る。	B
4	業務の効率化	(現状) 共同的な作業体制が成り立っていない部分がある。 (課題) 情報の共有はされているが、さらなる推進を図る。	紙ベースの資料削減(現状20%減)。	①②教材等をデータで共有することで、教員間の協働性を高める。 ①②分掌業務のマニュアル化、電子データの共有などにより作業効率を高める。 ①②グレーブを活用する。	A
5	部活動の負担軽減	(現状) 一部の教員に負担が集中している。 (課題) ひと月に、土日での完全休暇が一日もない状況もある。	ひと月に、きずなの日を設定するとともに、土日での完全休暇を二日以上目指す。	①ひと月に、きずなの日を設定するとともに、土日での完全休暇を一日以上目指す。 ②ひと月に、きずなの日を設定するとともに、土日での完全休暇を二日以上目指す。 ①②管理職は、指導回数が70回以上が見込まれる教員に対して、四半期ごとに部活動指導状況について確認を行い、指導助言を行う。	B
6	地域人材の活用	(現状) 技能検定の指導が大きな負担となっている。指導時間が年々増加している。 (課題) 資格取得数、上級資格取得を争う傾向になりつつあり、放課後や休日等の資格指導が多くなり、負担が増えている。	職員全員が関わりを持ち、業務を分担している状態。 外部講師を活用し、求められる資格を必要な生徒に効率よく指導できる体制づくり。	①旋盤、フライス盤の指導は技能士の人材を活用することにより、負担を軽減する。 ②技能士の指導に立ち会う職員の負担が大きいため、仕事を分担し平準化を図る。 ①②部活動やものづくり人材育成に関する地域人材の登用を目指す。	A

※達成状況: 次のA~Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった